

○Web サイトにオプトアウトする書式

重症患者におけるたんぱく質投与と臨床転帰の2群比較-単施設観察研究-

○研究の概要

重症患者における治療支援として日本集中治療医学会の発行する日本版重症患者の栄養療法ガイドラインに沿った栄養療法を行うことが求められています。その中で、重症病態ではより多くのたんぱく質量の投与が推奨されています。しかし、海外の文献では、急性腎障害やSOFAスコア9点以上の重症患者様に多くのたんぱく質量を投与すると臨床転帰が悪化すると報告されています。本邦での報告はまだありません。本研究は、本邦における重症患者様のたんぱく質投与量と臨床転帰を検討するものとなります。実際に行われた栄養療法と治療経過の関連を検討することは、現在から将来において重症患者様の治療支援および栄養管理の質的向上のために重要な事項と考えます。

○研究の目的と方法

本研究の目的は、急性期の重症患者様において、集中治療室（Intensive Care Unit：ICU）入室後5-7日にかけてたんぱく質>1.2g/kg/dayの投与が、死亡率、人工呼吸器装着日数、入院日数、ICU滞在日数などの臨床転帰と関連するかについて検討することです。日常診療で得られたデータをもとに2群比較を行い、統計分析を行う後ろ向き研究です。

○本研究の参加について

これにより患者様に新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

○調査する内容及び対象者

本研究は、2024年8月1日～2025年7月31日の期間中、国立病院機構熊本医療センターICUに入院した患者様における現疾患、SOFAスコア、死亡率、人工呼吸器装着日数、入院日数、ICU滞在日数、栄養投与量などを対象としています。新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究終了後の収集したデータは、鍵をかけたファイルにて5年間保管ののち、破棄いたします。

○実施期間

研究対象期間：2024年8月1日～2025年7月31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～2028年3月31日まで

○研究成果の発表

調査した患者様のデータおよび栄養管理室職員のデータは、分析・検討したのち、学会や論文で発表します。また、発表の際に、個人が特定されることはありません。

○研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 井上世雅

○当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 井上世雅

○問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 栄養管理室 井上世雅

電話：096-353-6501